

intersezioni 伊

日本とイタリアの交点

過去と現在におけるイタリアと日本の交流にスポットライトを当て、『日本とイタリアの交点』というイメージのもと、近刊書をもとに両国の繋がりを歴史や社会などの側面から掘り下げます。専門家のみならず、それぞれのテーマに興味を持つ人を広くターゲットとし、著者自身と専門領域の近い研究者のあいだで、本をめぐって対話します。

出版記念イベント

宣教師「シドッチ」の顔

江戸キリシタン屋敷までの足取り

マリオ・トルチヴィア (Mario Torcivia) 著
『ジョヴァンニ・バッティスタ・シドティ
使命に殉じた禁教下最後の宣教師』
(教文館 2019年)の刊行を記念して

2019年7月8日(月) 17:30-19:00

イタリア東方学研究所

京都市左京区北白川別当町29

入場無料・予約不要

講師	Mario Torcivia
コメンテーター	Silvio Vita (京都外国語大学教授) 阿久根晋 (京都大学)
司会・解説	Silvio Vita

お問合せ イタリア東方学研究所
075-703-3015 (平日10:00-17:00)
info.iseas@iseas-kyoto.org

2014年、東京文京区の「切支丹屋敷跡」から出土した人骨はイタリア出身の宣教師「シドッチ」のもものと判明、その人物像にあらためてスポットライトが当てられた。江戸時代中期の日本に潜入して捕らえられ、6代将軍の侍講新井白石から尋問を受けたジョヴァンニ・バッティスタ・シドティ(1667-1714)は、ヨーロッパの歴史・地理・風俗に関する情報やキリスト教の教義を伝えた。それらは白石の『西洋記聞』に納められたことでも知られている。

本書は、イタリアでの徹底的な調査を元に、新資料の発見も加えた初の伝記研究である。シドティの人となりや日本までの足取りを追い、彼の姓名や生没年月日をはじめ、教会での立場や肩書等についての様々な背景を紹介しながら、その全体像に迫る。

著者 マリオ・トルチヴィア (Mario Torcivia)

1964年イタリア・シチリアのパレルモ生まれ。現在、パレルモ教区司祭であり、同じシチリアのカターニアにある聖パオロ神学院の霊的神学担当正教授。イタリア神学会会員、イタリア典礼・聖人伝研究会会員、ローマの列聖調査申請者委員会委員、霊的神学フォーラム会員。ローマ教皇庁列聖省神学顧問(非常勤)も務める。

